

ヤマハ株式会社
2017年3月期
第2四半期決算説明会

2016年 11月 8日



2017/3期 上期決算の概要



決算概要

■対前年同期減収も、5期連続の営業増益

上期営業利益は246億円 楽器、音響機器事業は共に過去最高益
減収は、為替影響(▲224億円)、音楽教室移管影響(▲42億円)が要因

■楽器は、1Qで大変好調に推移した欧州、中国市場が、2Qでは落ち着きを見せたものの
上期では、中国は対前年同期二桁成長、欧州も好調維持 北米も堅調な推移

■音響機器も、AV機器 PA機器を中心として

日本、欧州、中国市場で対前年同期実質二桁成長、
北米市場も好調な推移

■その他のセグメントは、部品・装置事業で減収も概ね想定通りの推移

■四半期純利益は、リゾート施設の営業終了に伴う構造改革費用等
特別損失▲54億円を計上し前回予想からは減益

2017/3期 上期業績概要



(億円)

	16/3	17/3	前期比	前回予想	前回予想比
売上高	2,175	1,992	▲8.4%	2,005	▲0.7%
営業利益 (営業利益率)	212 (9.8%)	246 (12.4%)	+16.1%	230 (11.5%)	+7.2%
経常利益 (経常利益率)	222 (10.2%)	245 (12.3%)	+10.1%	235 (11.7%)	+4.2%
当期利益※ (当期利益率)	174 (8.0%)	272 (13.7%)	+56.3%	315 (15.7%)	▲13.6%

為替レート (円)

売上高 (期中平均)	US\$	122	105	107
	EUR	135	118	118
利益 (決済レート)	US\$	122	107	108
	EUR	134	123	123

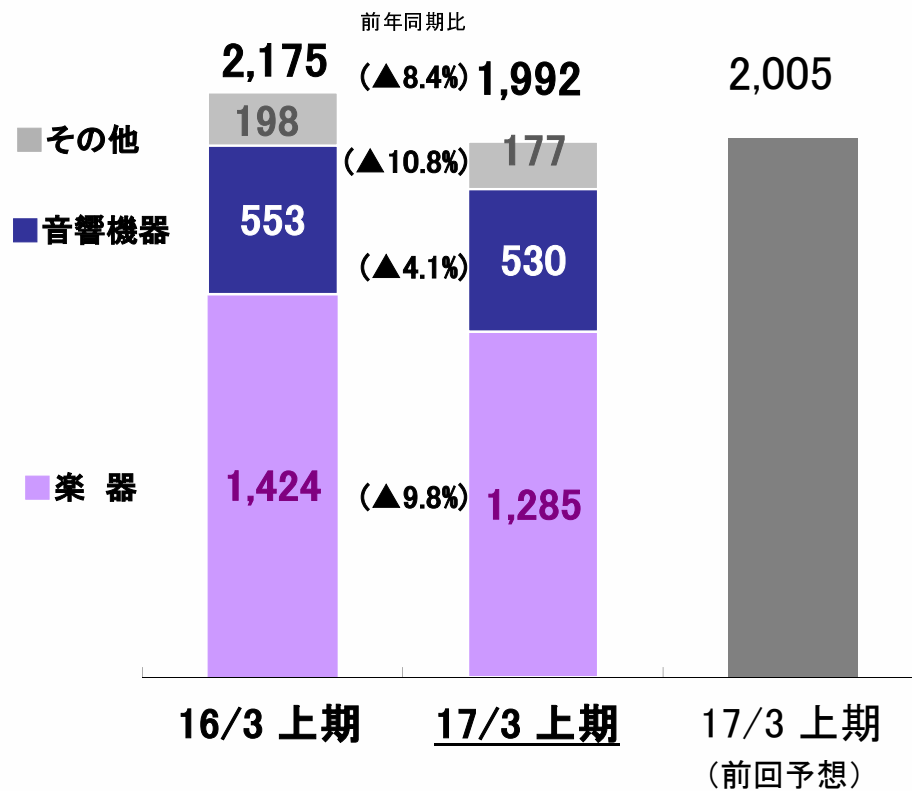
※連結財務諸表上は「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」

●前回予想は2016/8/2 発表

2017/3期 上期事業別業績

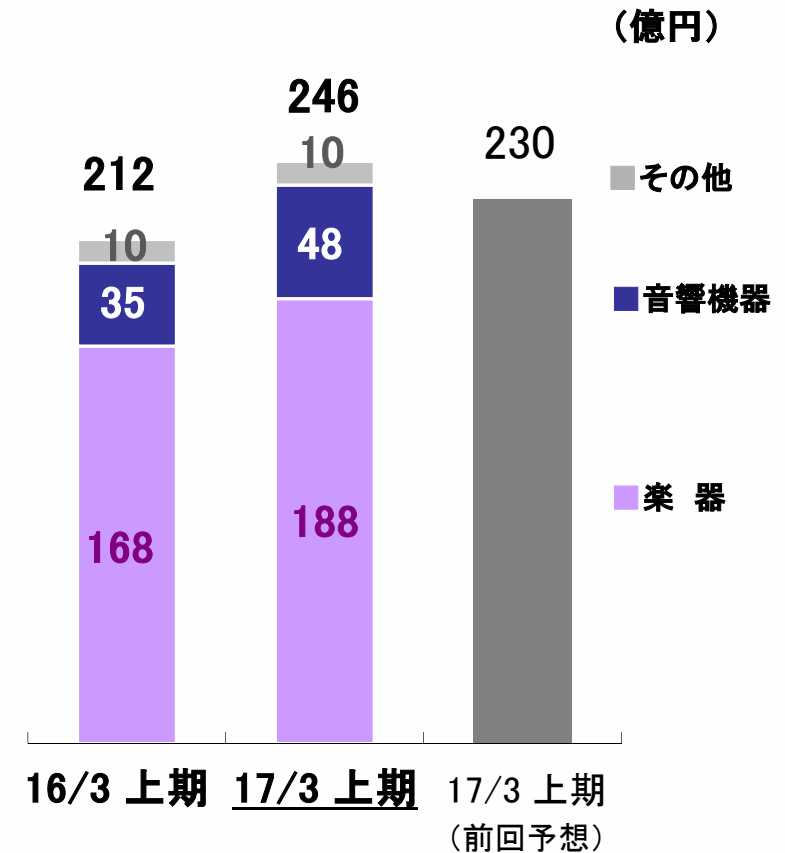


売上高



為替影響額 (億円)	
前期比較	▲224
	楽器 ▲152
	音響機器 ▲69
	その他 ▲3
前回予想比較	▲5
	楽器 ▲3
	音響機器 ▲2

営業利益



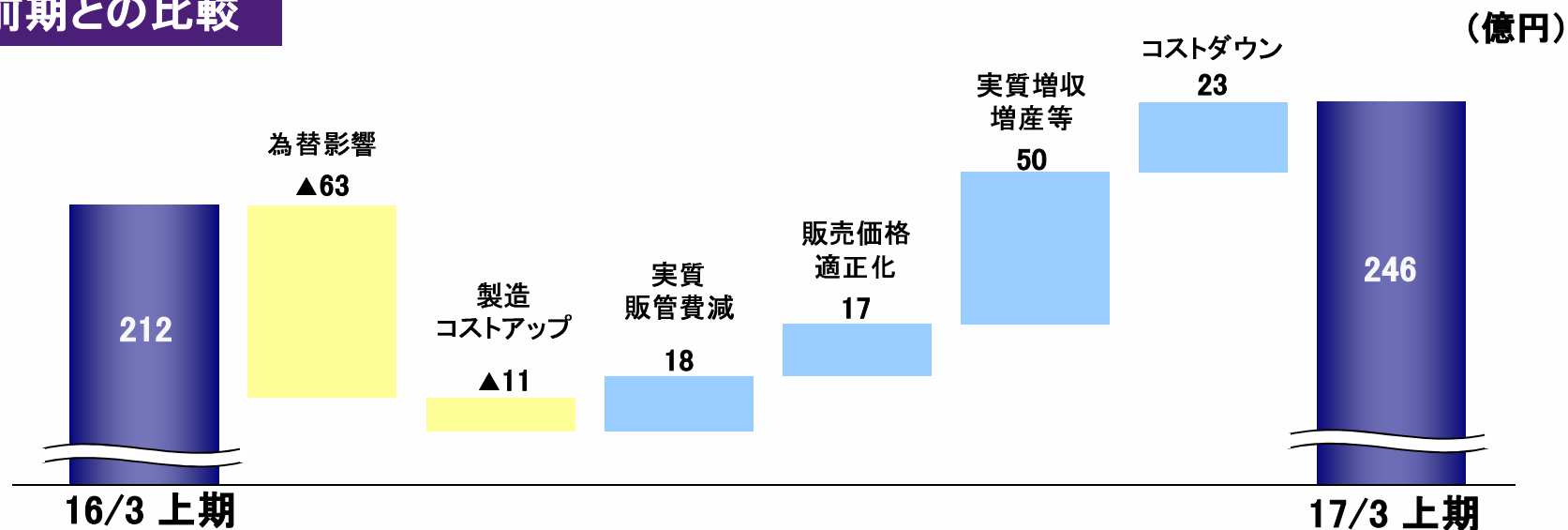
為替影響額 (億円)	
前期比較	▲63
	楽器 ▲51
	音響機器 ▲13
前回予想比較	+1
	楽器 +1
	音響機器 +1

●前回予想は2016/8/2 発表 *16/3期実績は防音を音響セグメントへ組み替えた数値

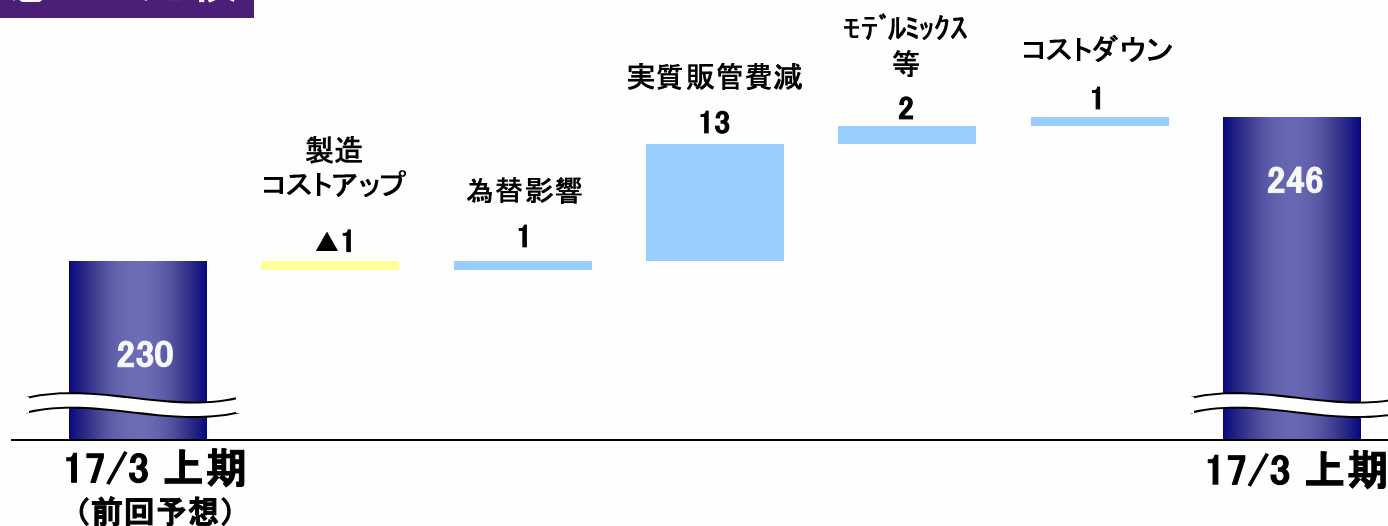
2017/3期 上期営業利益増減要因



前期との比較



前回予想との比較



●前回予想は2016/8/2 発表

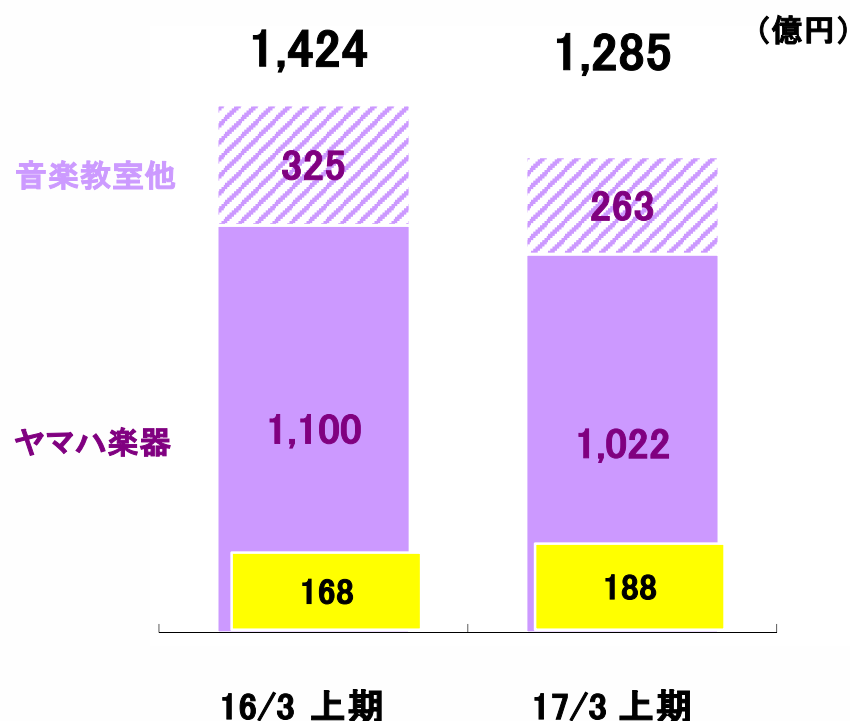
楽器事業 上期の状況



上期

■ 売上高

■ 営業損益



上期の状況

- ・対前年同期減収増益
- ・減収は、為替と音楽教室移管影響が主要因
- ・市場別では、中国、欧州市場が好調 北米堅調も 2Qは1Qの好調な状況から反動減などで減速傾向
- ・商品別では、ギターが好調、ピアノ、電子楽器が 堅調に推移
- ・実質増収、販売価格適正化、コストダウン のれんの償却減を含む販管費の抑制などで増益

*16/3期実績は防音を音響セグメントへ組み替えた数値

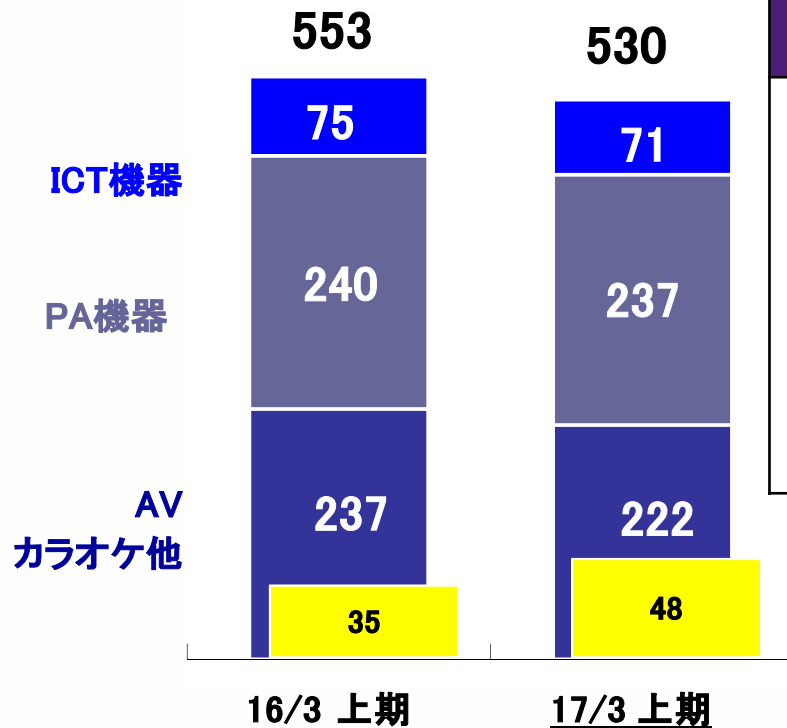
音響機器事業 上期の状況



上期



(億円)



上期の状況

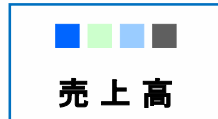
- ・対前年同期減収増益 減収要因は為替
- ・地域別には、日本、欧州、中国市場で実質二桁成長
- ・商品別には、AV機器 PA機器共にほぼ実質二桁成長
ルーター好調、カラオケも堅調に推移
- ・損益は、実質増収、コストダウン、
のれんの償却減を含む販管費の抑制等で増益

*16/3期実績は防音を音響セグメントへ組み替えた数値

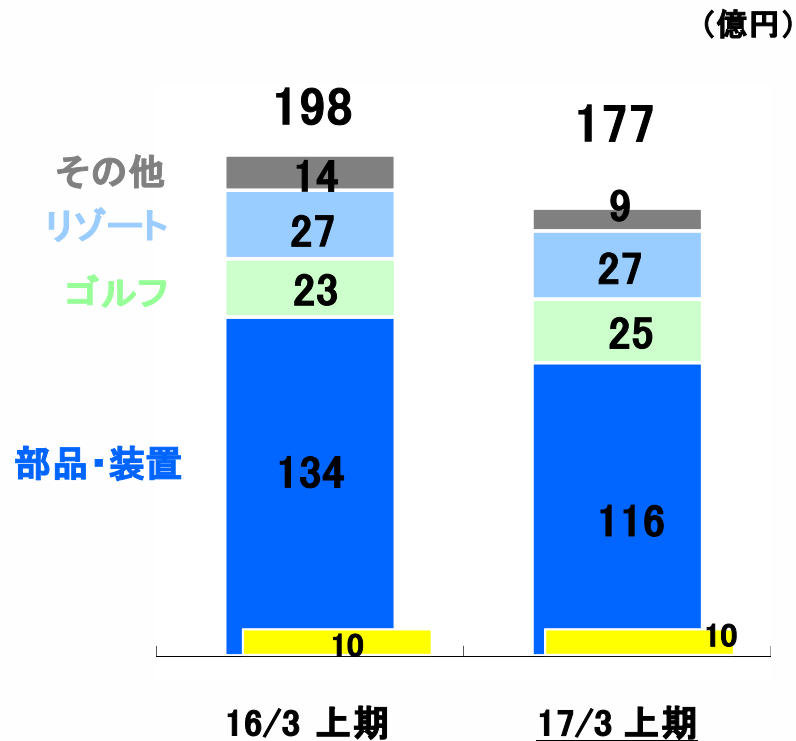
その他の事業 上期の状況



上期



■ 営業損益



上期の状況

- ・対前年同期減収、損益横ばい
- ・減収の主要因は電子部品の減収
- ・損益は、電子部品の減益を
ゴルフ新商品効果等で補い前期並みを確保

* 部品・装置売上は電子部品 自動車用内装部品 FA機器等の合計額です

下期の見通し

- 楽器の下期市況見通しは、概ね変わらず
- 音響機器は、前回予想に対し、AV機器 ICT機器での減速を想定
- その他の事業は、リゾート施設の営業終了による減収等 総じて減収を想定

- 為替レートは、下期 US\$ 100円 ユーロ 110円に修正する。

通期の業績見込み

- 通期業績予想は、為替レートの修正に伴い、売上高を、前回予想の4,110億円から4,020億円に下方修正するものの、上期損益が好調に推移したことを踏まえ営業利益、経常利益は、共に前回予想の420億円を据え置く。

親会社株主に帰属する当期純利益は、リゾート施設の営業終了に伴う構造改革費用の特別損失計上により前回予想455億円を410億円に修正する。

2017/3期 通期業績予想



(億円)

	16/3	17/3予想	前期比	前回予想	前回予想比
売上高	4,355	4,020	▲7.7%	4,110	▲2.2%
営業利益 (営業利益率)	407 (9.3%)	420 (10.4%)	+3.3%	420 (10.2%)	-
経常利益 (経常利益率)	409 (9.4%)	420 (10.4%)	+2.7%	420 (10.2%)	-
当期利益※ (当期利益率)	326 (7.5%)	410 (10.2%)	+25.6%	455 (11.1%)	▲9.9%

為替レート (円)

売上高 (期中平均)	US\$	120	103	106
	EUR	133	114	117
利益 (決済レート)	US\$	121	104	106
	EUR	134	118	120

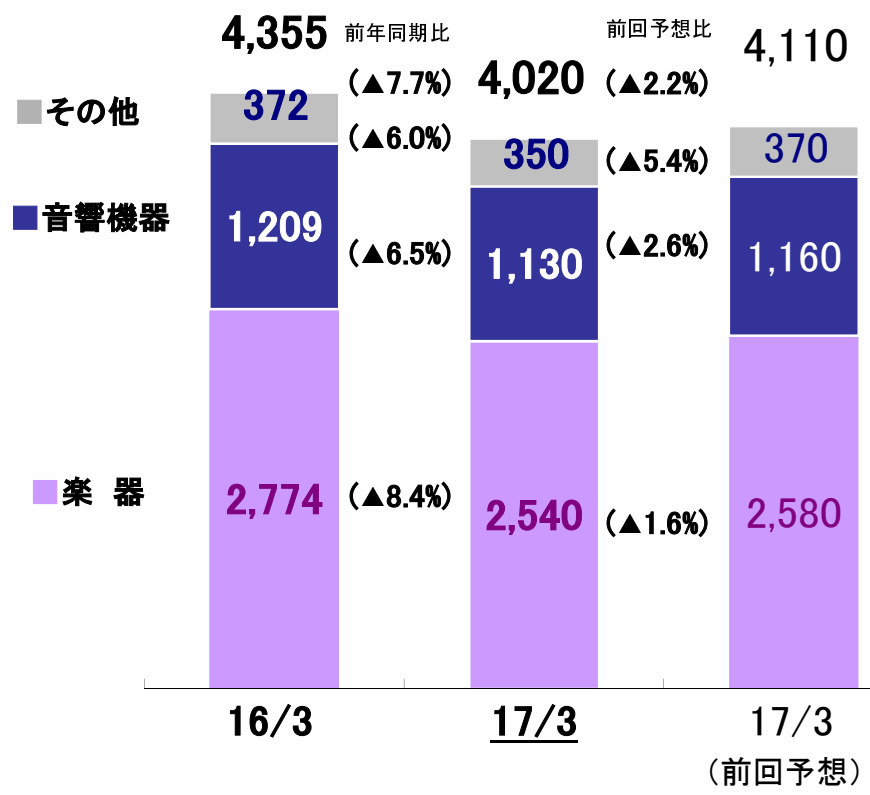
※連結財務諸表上は「親会社株主に帰属する当期純利益」

●前回予想は2016/8/2 発表

2017/3期 通期事業別業績予想



売上高

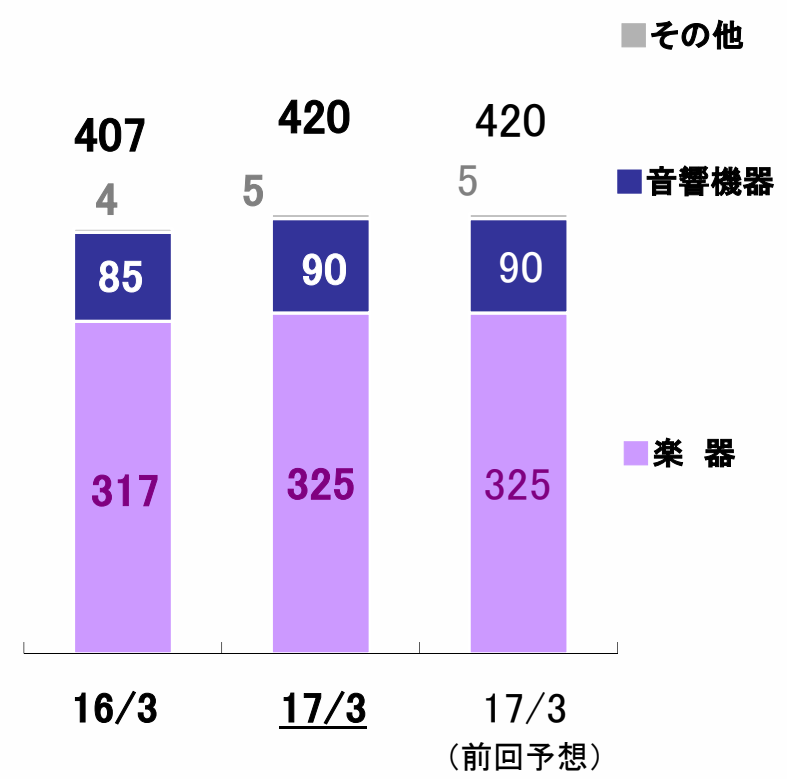


為替影響額 (億円)	
前期比較	▲456
前回予想比較	▲46

為替影響額 (億円)	
楽器	▲299
音響機器	▲148
その他	▲9
楽器	▲27
音響機器	▲17
その他	▲2

営業利益

(億円)



為替影響額 (億円)	
前期比較	▲138
前回予想比較	▲12

為替影響額 (億円)	
楽器	▲105
音響機器	▲34
その他	+1
楽器	▲9
音響機器	▲3

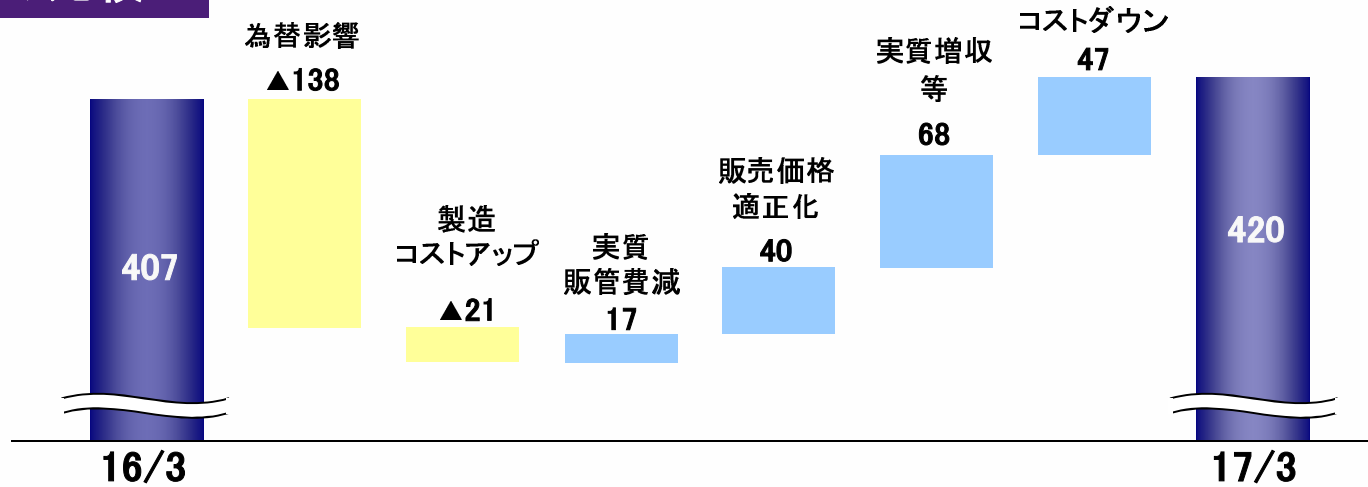
● 前回予想は2016/8/2 発表 *16/3期実績は防音を音響セグメントへ組み替えた数値

2017/3期 通期営業利益予想増減要因

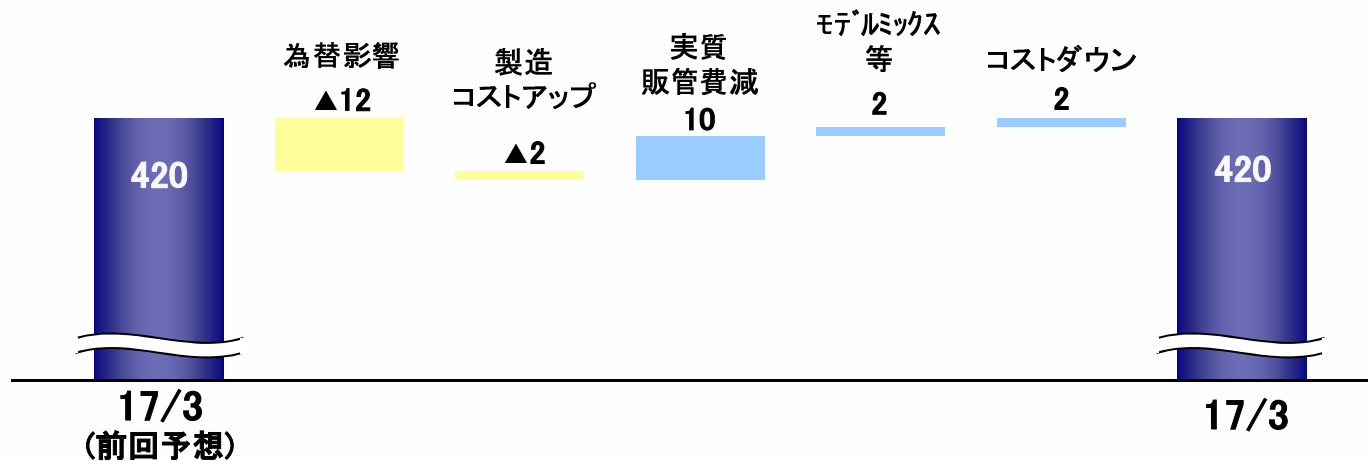


(億円)

前期との比較



前回予想との比較



●前回予想は2016/8/2 発表

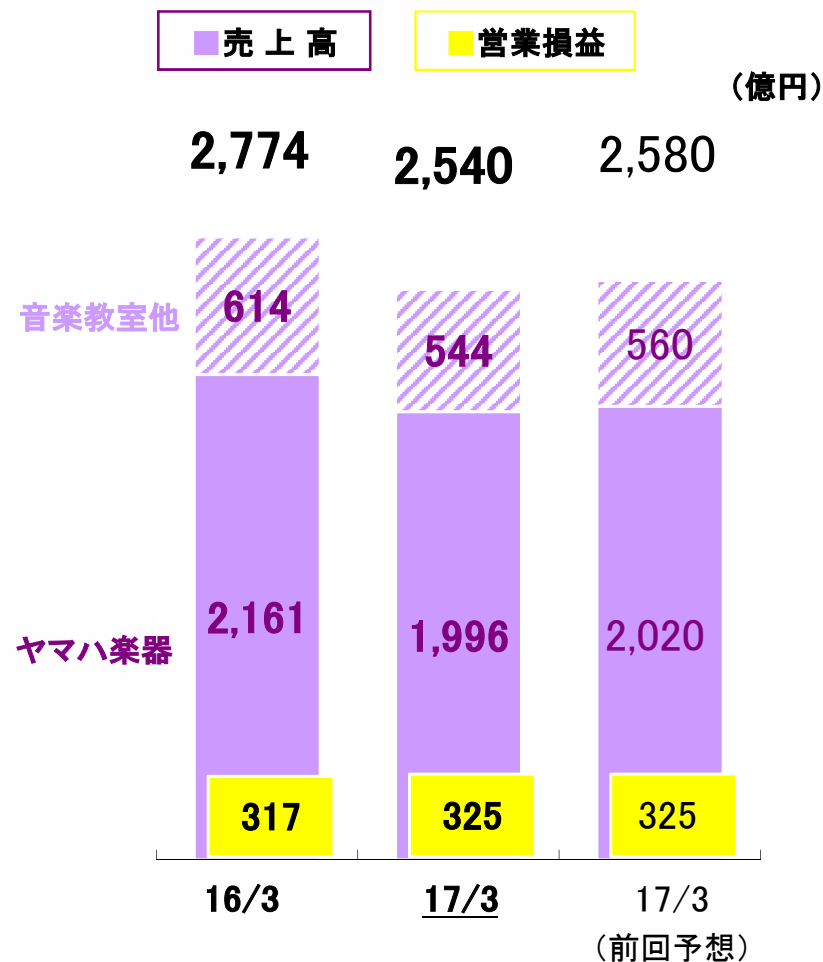
楽器事業（予想）



通期

通期予想

- ・対前期 対前回予想共に減収も損益は前回予想通り
- ・減収は、為替レート変更が要因
- ・各市場、概ね前回予想並みの堅調な販売を想定
- ・商品別には、ピアノ、電子ピアノ、ギターの堅調な推移を想定
- ・損益は、実質増収、販売価格適正化、コストダウン 販管費の抑制等で為替影響を吸収



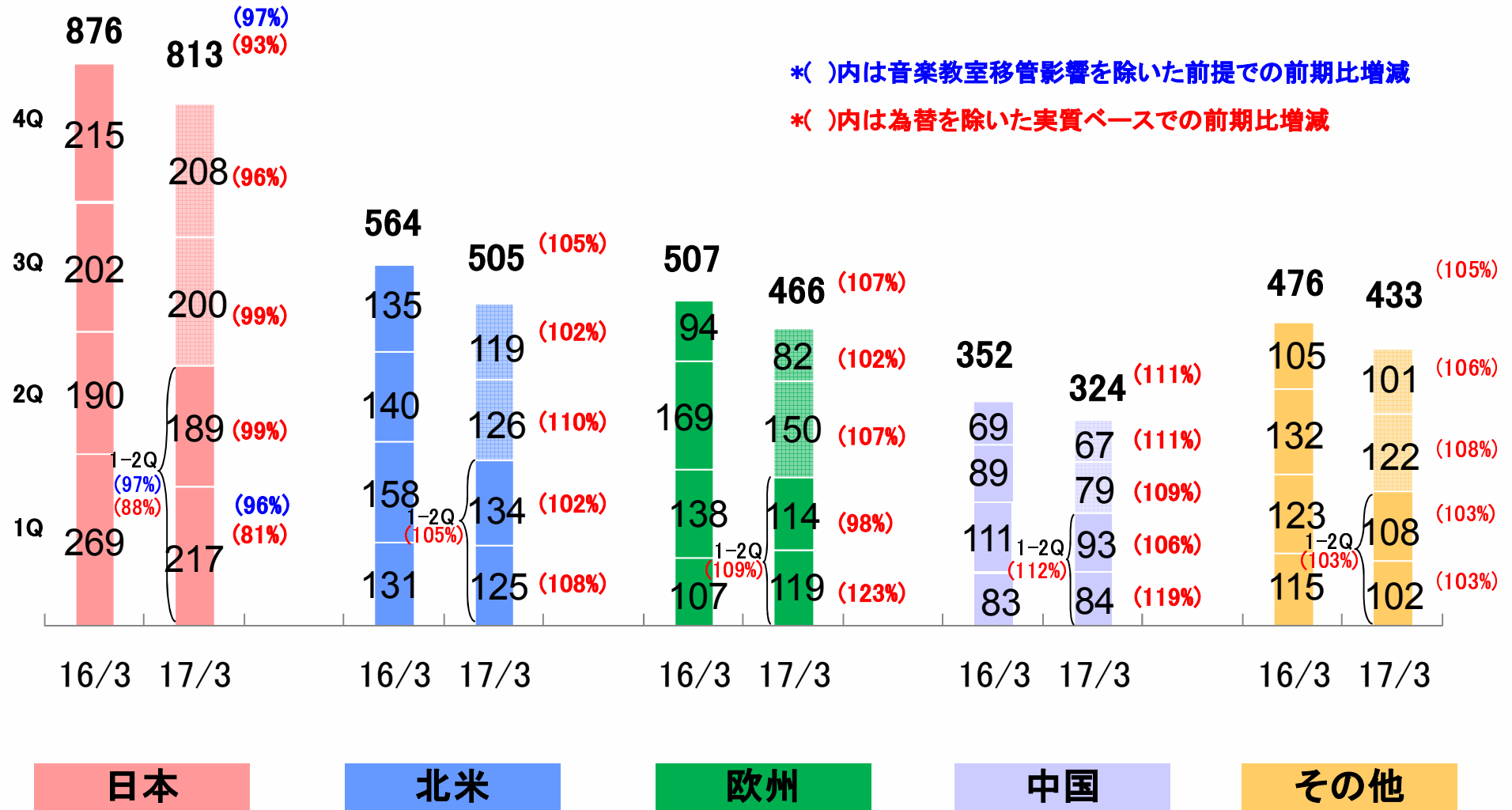
楽器事業(地域別の販売予想)

(ソフト、音楽教室等を含む)



全市場計 上期売上高 1,285億円 (104%) 通期予想 2,540億円 (104%)

(億円)

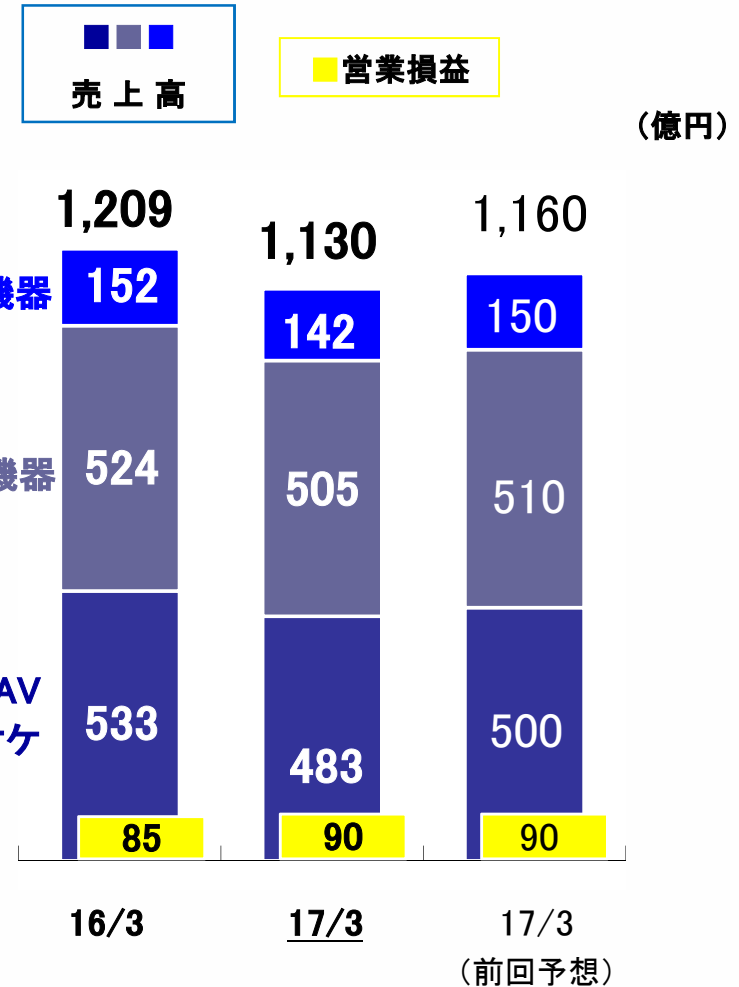


*16/3期実績は防音を音響セグメントへ組み替えた数値

音響機器事業 (予想)



通期



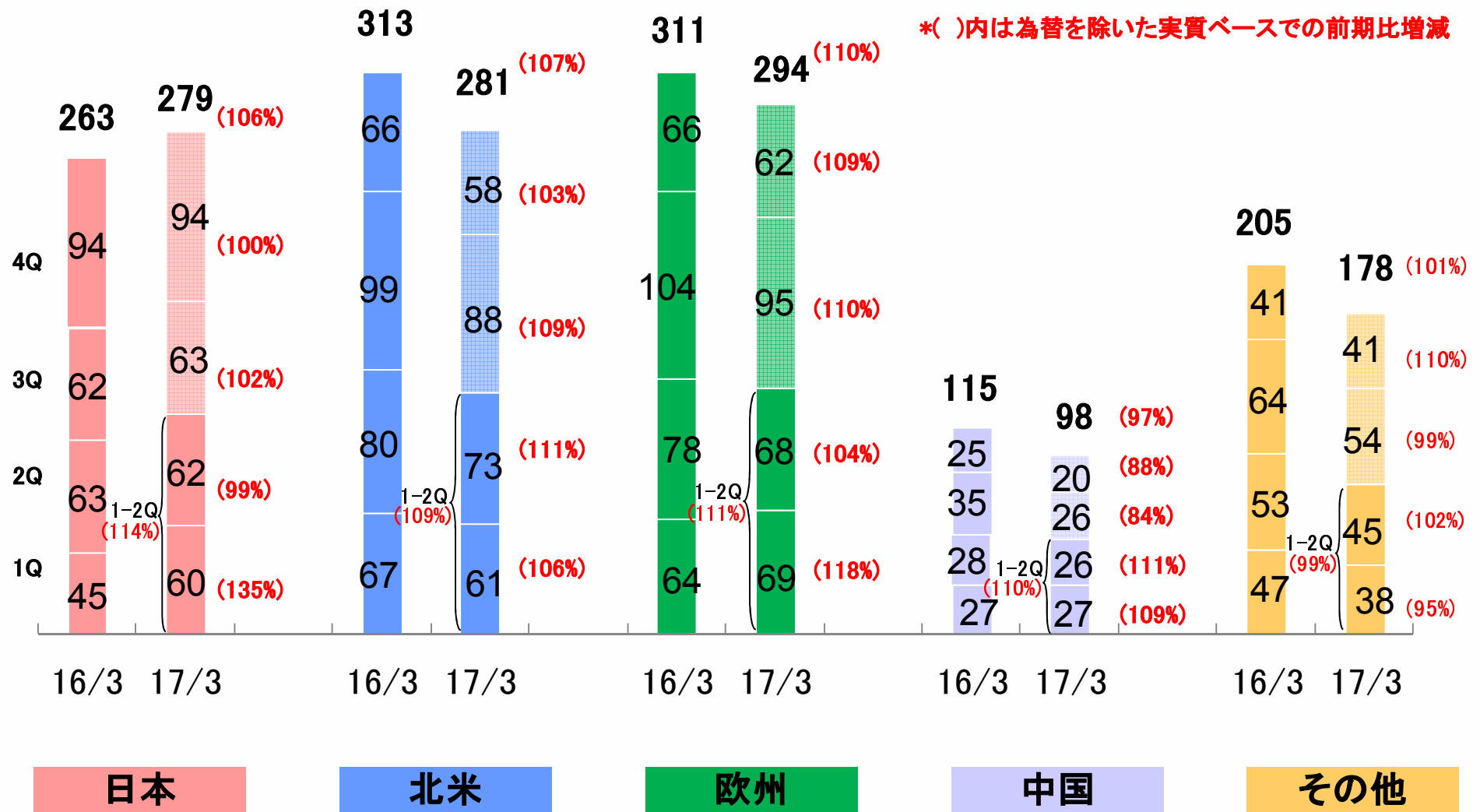
通期予想

- ・対前期、対前回予想共に減収も
損益は前回予想を据置き
- ・AV機器の堅調な推移 PA機器のうち、業務用音響機器及び、ルーターの实质二桁成長を想定
- ・損益は、实质増収、コストダウン、販売価格適正化、販管費の抑制等で為替影響を吸収

音響機器事業(地域別の販売予想)



全市場計 上期売上高 530億円 (109%) 通期予想 1,130億円 (106%) (億円)

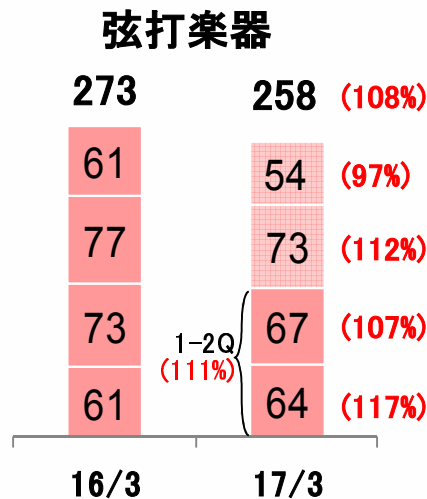
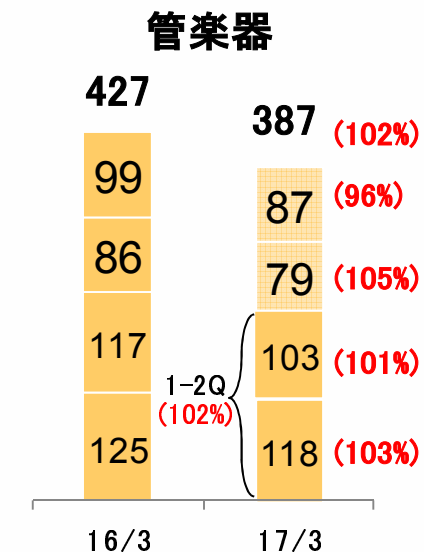
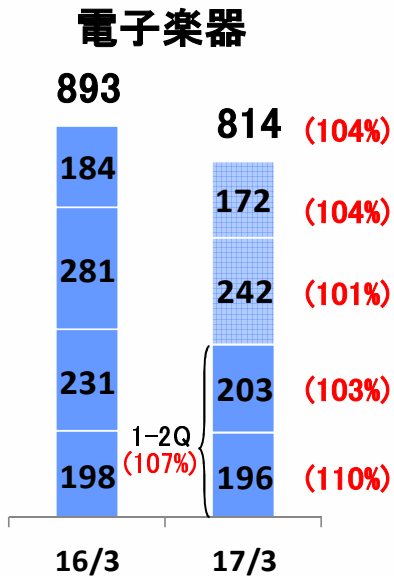
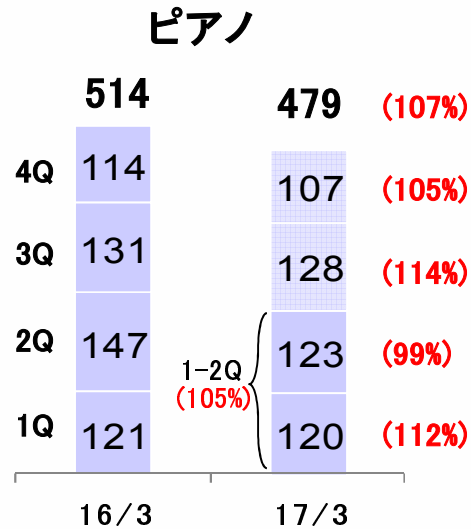


*16/3期実績は防音を音響セグメントへ組み替えた数値

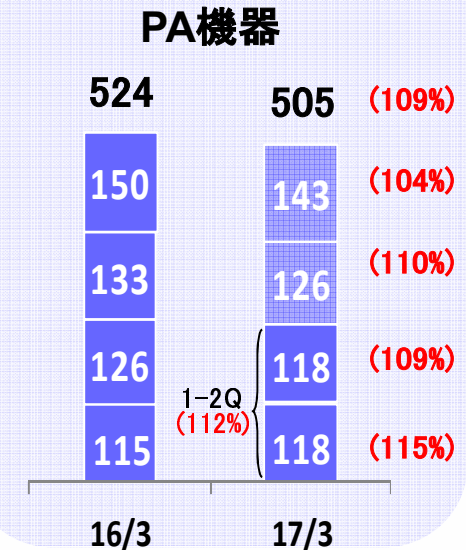
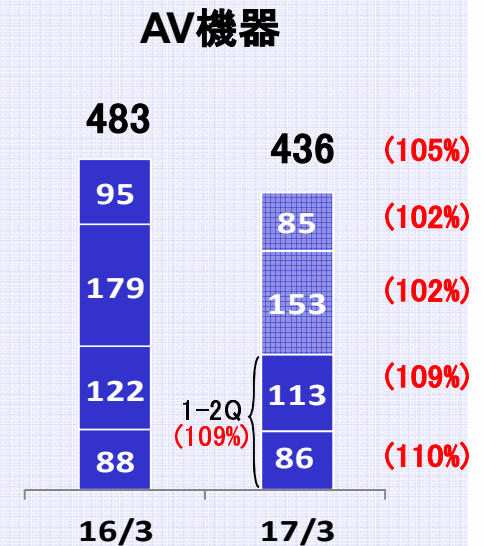
楽器・音響機器事業(主要商品別販売予想)



楽器事業



音響機器事業 (億円)



*()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

その他の事業（予想）



通期

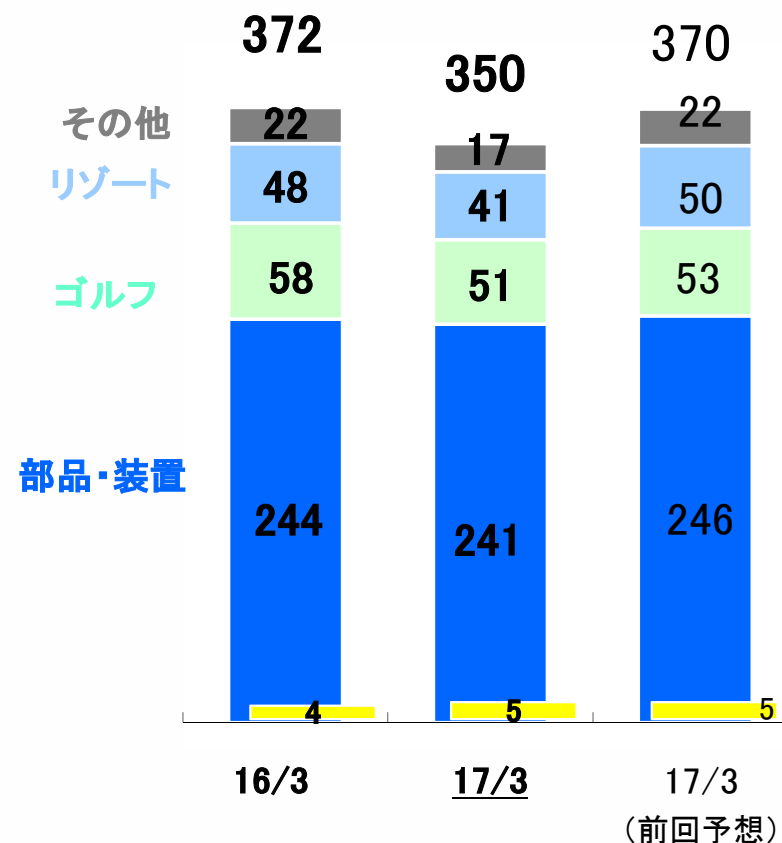
売上高

営業損益

(億円)

通期予想

- ・対前期、対前回予想共に減収も
損益は、前回予想を据置き
- ・部品・装置は、電子部品の下期回復を想定
- ・リゾートは、「つま恋」の3Q末一般営業終了で減収



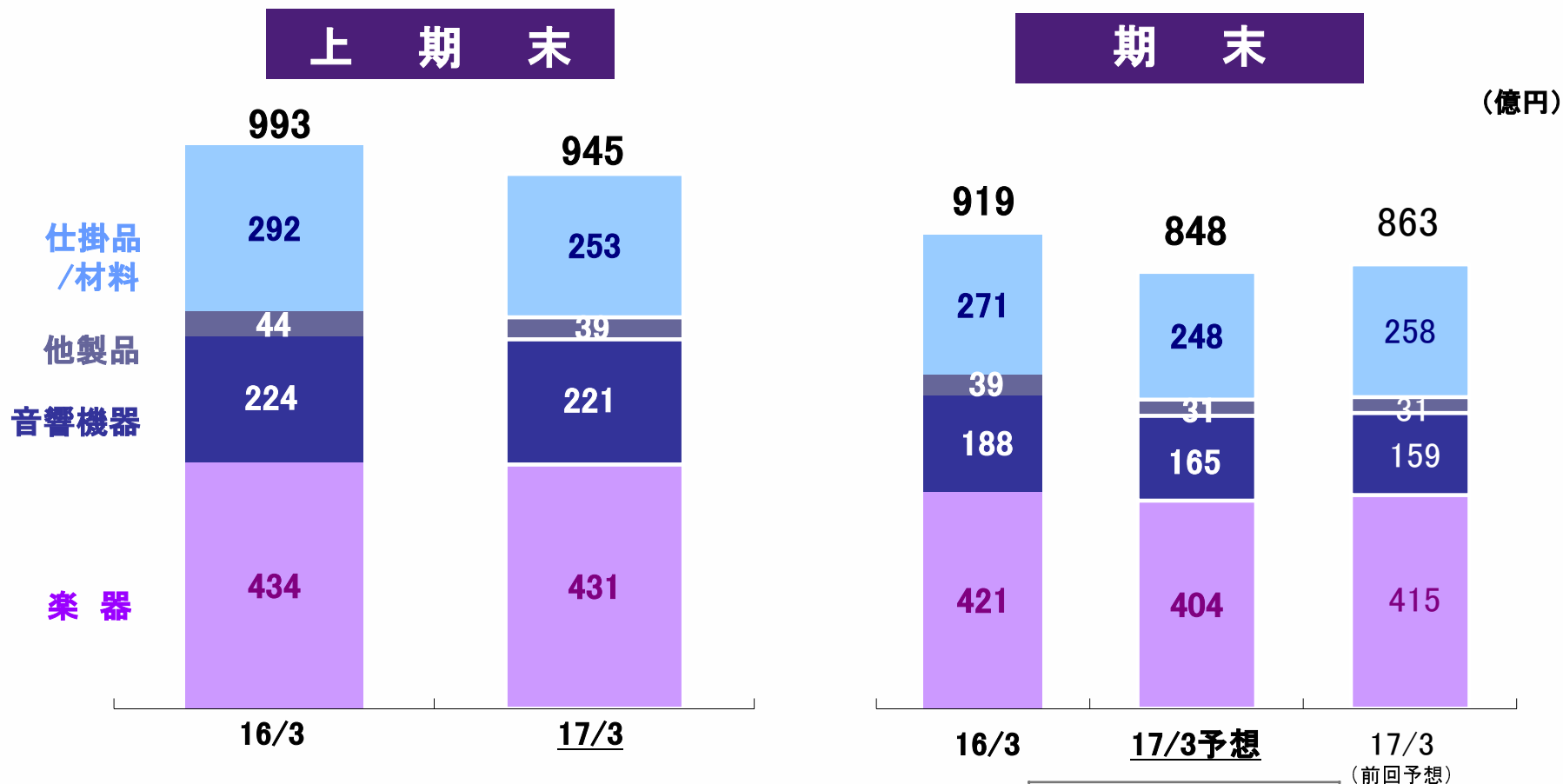
* 部品・装置売上は電子部品 自動車用内装部品 FA機器等の合計額です

棚卸資産



➤ 上期末在庫は945億円

➤ 17/3期末在庫は848億円を想定



為替影響額 (億円)	
前期比較	▲134

為替影響額 (億円)	
前期比較	▲79
前回予想比較	▲19

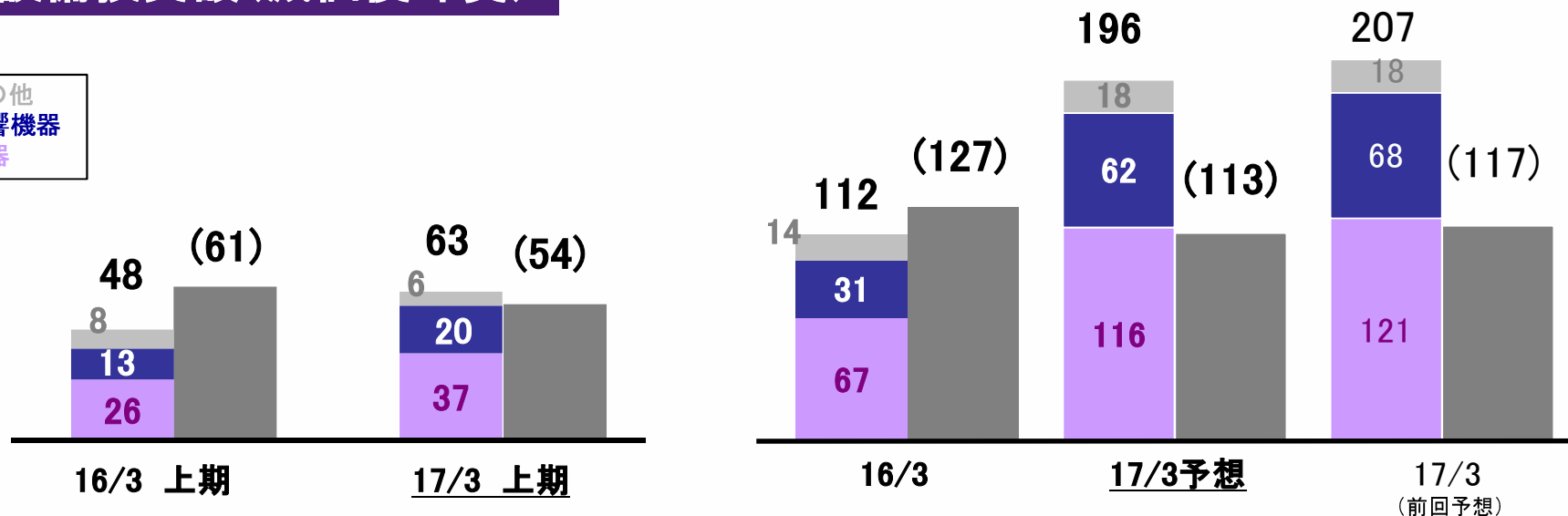
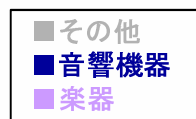
● 前回予想は2016/8/2 発表

設備投資額・減価償却費/研究開発費

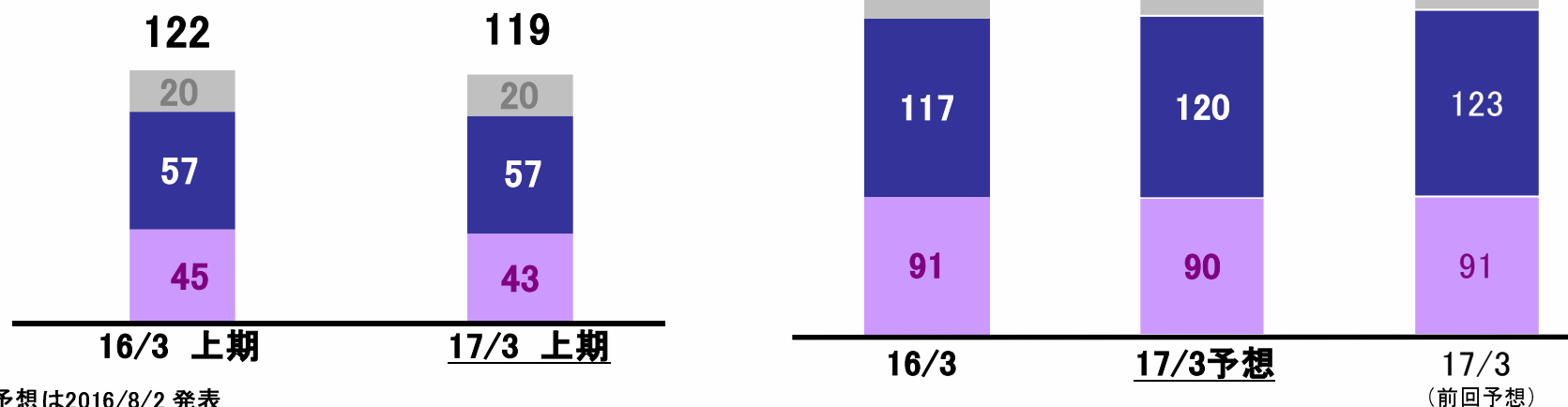


設備投資額(減価償却費)

(億円)



研究開発費



●前回予想は2016/8/2 発表

貸借対照表



(億円)

	上期末			期末予想		
	15/9末	16/9末	増減	16/3末	17/3末	増減
現預金	876	944	+68	882	891	+9
売上債権	596	530	▲66	478	455	▲23
棚卸資産	993	945	▲48	919	848	▲71
他流動資産	221	226	+5	272	230	▲42
固定資産	2,543	2,144	▲399	2,146	2,210	+64
資産計	5,229	4,789	▲440	4,697	4,634	▲63
仕入債務	212	170	▲42	194	204	+10
借入金	214	244	+30	85	98	+13
他負債	1,366	1,215	▲151	1,379	1,144	▲235
純資産計	3,437	3,160	▲277	3,039	3,188	+149
負債純資産計	5,229	4,789	▲440	4,697	4,634	▲63

付属資料

2017/3期 2Q業績概要



(億円)

	16/3	17/3	前期比	前回予想	前回予想比
売上高	1,119	1,008	▲10.0%	1,021	▲1.3%
営業利益 (営業利益率)	124 (11.1%)	129 (12.8%)	+3.9%	112 (11.0%)	+14.9%
経常利益 (経常利益率)	138 (12.3%)	130 (12.9%)	▲5.5%	120 (11.8%)	+8.5%
当期利益※ (当期利益率)	112 (10.0%)	47 (4.7%)	▲57.6%	90 (8.8%)	▲47.5%

為替レート (円)

売上高 (期中平均)	US\$	122	102	105
	EUR	136	114	115
利益 (決済レート)	US\$	123	104	105
	EUR	134	121	121

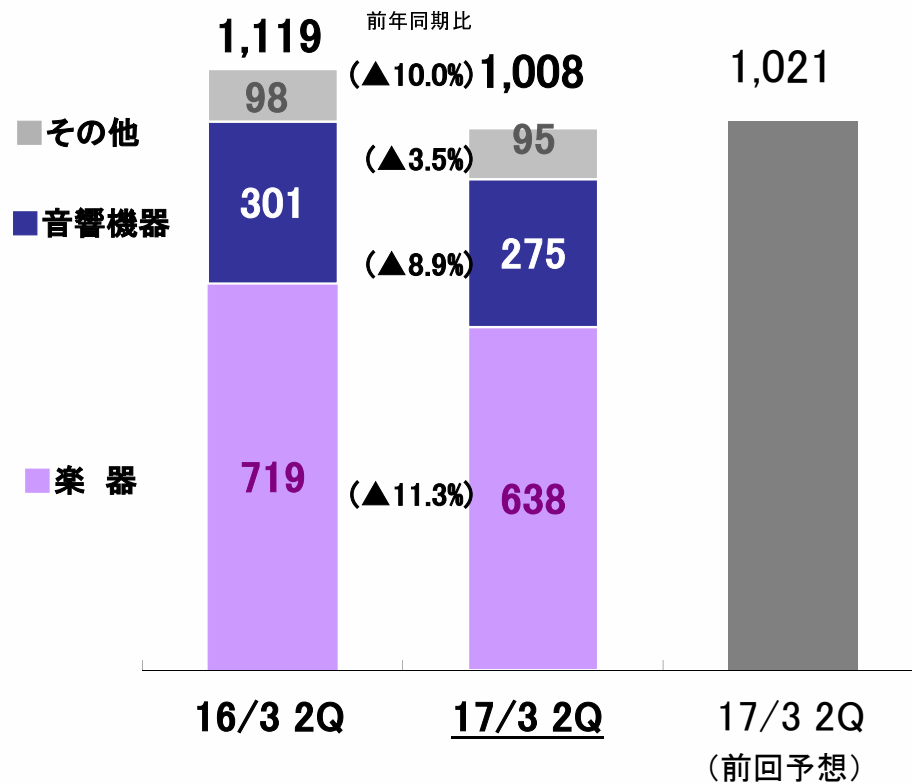
※連結財務諸表上は「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」

●前回予想は2016/8/2 発表

2017/3期 2Q事業別業績

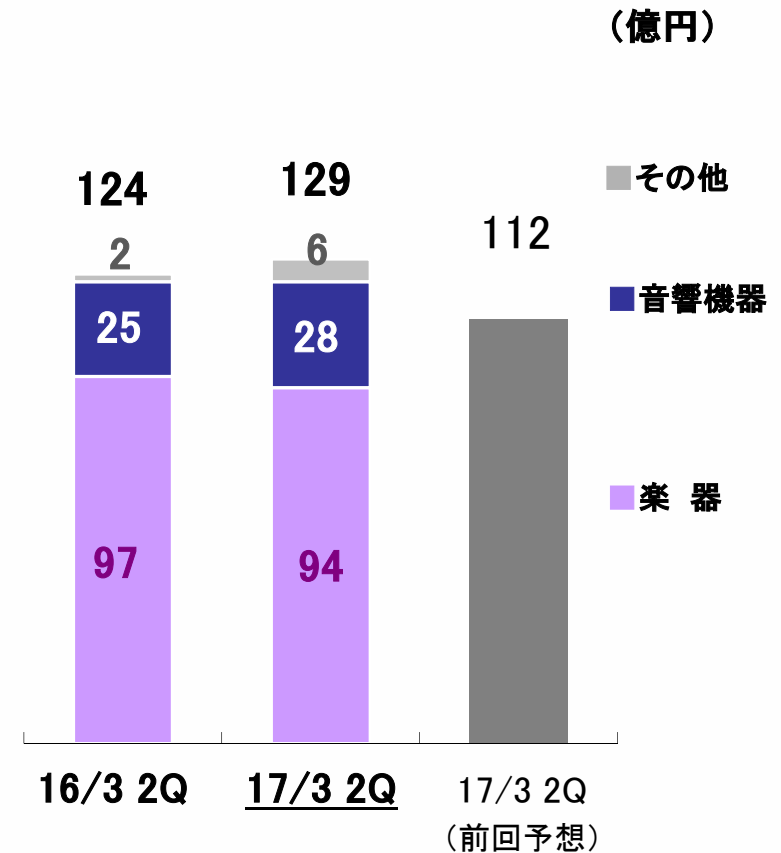


売上高



為替影響額 (億円)	
前期比較	▲136
	楽器 ▲91 音響機器 ▲42 その他 ▲3
前回予想比較	▲5
	楽器 ▲3 音響機器 ▲2

営業利益



為替影響額 (億円)	
前期比較	▲40
	楽器 ▲31 音響機器 ▲8
前回予想比較	+1
	楽器 +1 音響機器 +1

●前回予想は2016/8/2 発表 *16/3期実績は防音を音響セグメントへ組み替えた数値

2017/3期 上期営業外損益、特別損益



(億円)	16/3 上期	17/3 上期	17/3 上期前回予想
営業外損益			
金融収支	13	18	18
その他	▲3	▲20	▲13
計	10	▲2	5
特別損益			
固定資産処分損益	5	1	1
その他	▲2	▲53	▲1
計	3	▲52	0
法人税他			
法人税等	57	56	59
法人税等調整額	▲7	▲136	▲141
非支配株主に帰属する損益	1	1	2
計	51	▲79	▲80

リゾート構造改革 ▲49
減損損失 ▲4

●前回予想は2016/8/2 発表

➤ 最近の損益改善に伴い17/3期から繰延税金資産計上範囲が拡大、136億円を計上

2017/3期 通期営業外損益、特別損益



(億円)	16/3 通期	17/3 通期予想	17/3 通期前回予想
営業外損益			
金融収支	27	32	36
その他	▲25	▲32	▲36
計	2	0	0
特別損益			
固定資産処分損益	83	0	0
その他	▲76	▲50	0
計	7	▲50	0
法人税他			
法人税等	95	88	103
法人税等調整額	▲6	▲128	▲139
非支配株主に帰属する損益	1	0	1
計	90	▲40	▲35

遊休資産売却 90
その他 ▲7

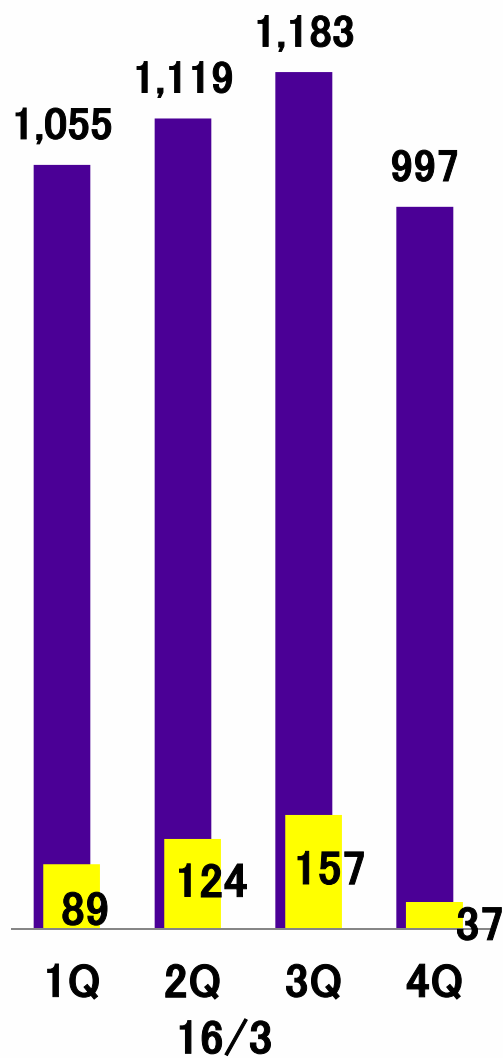
のれん一時償却
Line 6 ▲45
Revolabs ▲23
固定資産減損 ▲8

●前回予想は2016/8/2 発表

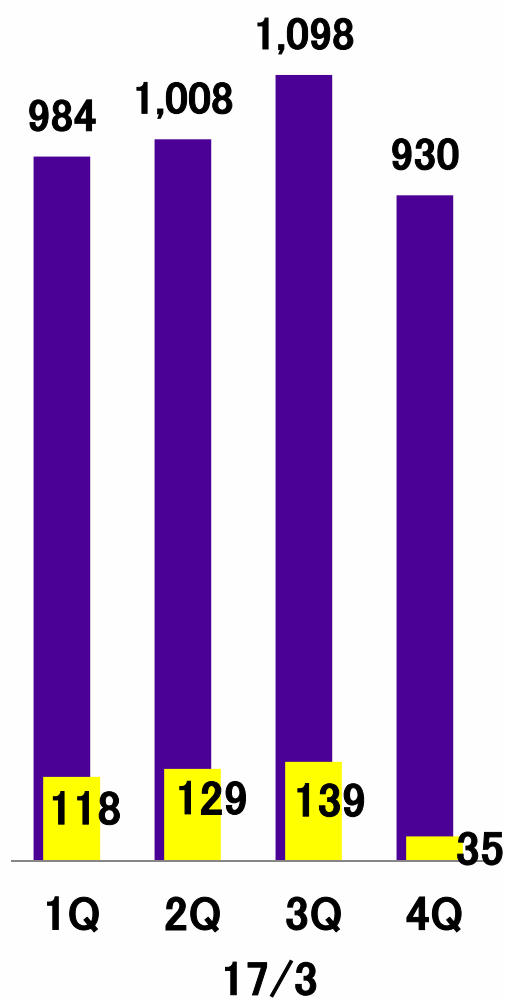
四半期別売上高／営業利益



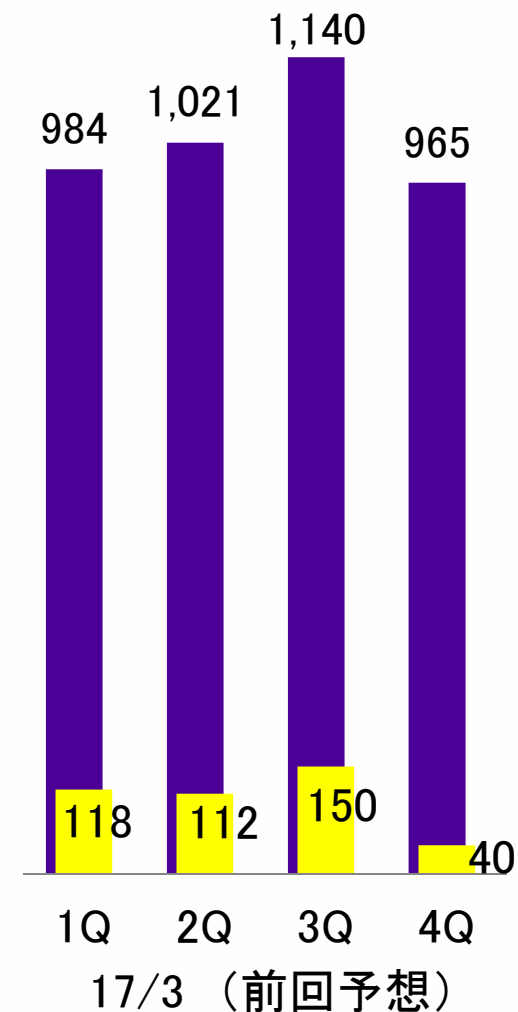
(億円)



売上高(通期)	4,355
営業利益(通期)	407



売上高(通期)	4,020
営業利益(通期)	420



売上高(通期)	4,110
営業利益(通期)	420

●前回予想は2016/8/2 発表

多彩な自動演奏コンテンツでリスニングの楽しみを広げる
自動演奏機能付きアコースティックピアノ

ヤマハ『ディスクラビア エンスパイア』

鍵盤やペダルの動きを正確に再現する自動演奏機能を搭載したハイブリッドピアノ「ディスクラビア」の新シリーズ「Disklavier ENSPIRE(ディスクラビア エンスパイア)」

リスニングの楽しみが広がる多彩なコンテンツを内蔵し、プロモデルでは弱いタッチの連打を高精度に再生できる世界初の技術「ハンマーセンサーフィードバック」を搭載し、より繊細な音の表現も可能となりました。スマートフォン・タブレットのアプリによりワイヤレスでの操作も可能です。



ヤマハ ディスクラビア エンスパイア
『YUS1ENST』



ヤマハ ディスクラビア エンスパイア
『C3X-ENPRO』

【2016年12月発売】

disklavier **ENSPIRE™**



アンプを使わずにギター本体からリバーブやコーラスといった
エフェクトサウンドを生み出すことのできるギター
ヤマハ『トランスアコースティックギター』

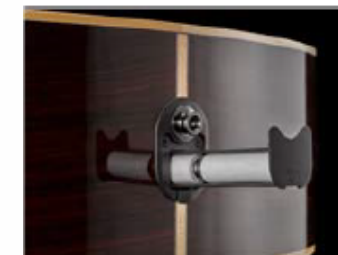
アコースティックと同じ発音方式で音を響かせる技術「TransAcoustic」を搭載し、ギターの生音にアンプを使わずにリバーブなどのエフェクトを直接かけられるため、ギター本来の音と一体となって響く心地よい自然なエフェクトで新しい演奏体験を実現します。



ヤマハ トランスアコースティックギター
『LL-TA VT』
【2016年11月発売】



弦などの振動を電気信号に変換して、ボディの内部に設置した「加振器」に伝え、加振器がギター全体を振動させることにより、アンプやスピーカーを接続せずにギター本体の振動でエフェクト音を発することが可能になりました。



今期の戦略商品



ネットワークオーディオの新提案「MusicCast」を手軽に始められるパッケージ商品 ヤマハ ホームシアターパッケージ『MUSICCAST-P306』

ヤマハ独自のネットワーク機能「MusicCast」を、手軽に始められるサウンドバータイプのサラウンドシステムとワイヤレスストリーミングスピーカーをセット商品にしたホームシアターパッケージです。テレビの前に置くスリムなサウンドバーと、場所を選ばずにさまざまな部屋に置くコンパクトなスピーカーをネットワーク接続することで、機器単体としてテレビ番組や音楽などが楽しめるのはもちろん、専用アプリを使って相互の機器間で音楽コンテンツの配信・共有・リンク再生などをコントロールできます。



「MusicCast®」接続イメージ図



専用アプリ「MusicCast CONTROLLER」操作画面例



ヤマハ ホームシアターパッケージ『MUSICCAST-P306』

【2016年10月発売】

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。